

今日の眼疾患治療指針 第2版

田野保雄, 樋田哲夫 総編集 大路正人, 山田昌和, 野田 徹 編
後藤 浩, 永本敏之, 西田保裕, 相原 一 編集協力

『今日の治療指針』は、およそ医師であれば利用したことのない人はいないと思われるくらい医界に膾炙していると言ってよい。私自身、いまなお古い治療指針を紐解いて時々活用している次第である。ただ、『今日の治療指針』は他科医のための治療指針である。眼科医には、たとえば内科疾患の章については参考になる反面、眼科疾患の章は内科医には便利かもしれないが、われわれには役立たない。

眼科医のためには、眼疾患について掘り下げた知識が必要になる。そういった意味で刊行されたのが『今日の眼疾患治療指針』の初版の主旨であったようだ。初版発行後7年を経過し、その間従来の知識で十分間に合う分野もあれば、進歩が著しい領域もある。現時点での最新の各疾患への対応の指針が示されたのが本書で、日本の眼科をリードする田野保雄教授と樋田哲夫教授の総編集の下に企画されただけあって、項目の選定にもそつがない。項目は870項目にも及び、まず診断をしてその疾患までたどり着くのが大変という場合もある。

本書には各種疾患・異常の最新の治療法が網羅されているのは言うまでもないが、内容はそれだけにとどまらない。治療法の前には病態や診断が示されているし、「症状・所見・主訴からの鑑別診断フローチャート」もある。「検査総論」には現在眼科で行われてい

る種々の検査法について解説されている。言うならば、『今日の眼科診断指針』や『今日の眼科検査指針』も兼ねている。治療についても、「治療総論」で処置から手術までが触れられ、「診断室、手術室での緊急事態に備えて」と「眼科薬剤一覧」の章がある。このように、診断、検査から治療まで本書1冊ですべて対応できるほど内容は豊富である。表題は『今日の眼疾患治療指針』であるが、これは謙虚なもので、内容からみると『今日の眼科診療指針』とすべきではなかろうか。

第2版はこのように眼疾患についての最新の情報が盛り込まれており、初版に比べ大型となり、頁数も900を超すので、携帯するよりも座右に置いて、診療中にちょっと調べたいときに利用すると、大変重宝な本ではないかと思われる。

今後、本書は版を重ねることであろうが、たとえば「視能矯正」や疾患名について用語を正しく使用するようにはしていただくとありがたい。

帝京大学医療技術学部長 丸尾敏夫

●A5 頁960 2007年

定価 25,200円 (本体 24,000円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-00436-7] 医学書院刊